

---

# シアワセ

姜妃

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

シアワセ

### 【Nコード】

N3107A

### 【作者名】

姜妃

### 【あらすじ】

私が愛する人と過ごす、ある夕暮れ。

(前書き)

これを読んで誰かが元気になってくれたらうれしいです。

今日も疲れた…

そんな背中がいくつも流れて行くのを見ながら、私は考えた。疲れたけど、楽しかった。

友達と話した、学校で誉められた、お弁当がおいしかった。ちよつとしたことだって私は楽しかったと思う。

だけど、町行く人は、ただ下を向き、疲れた顔をして歩いている。私は隣を歩く愛しい人に問いかけた。

「彼等はなぜ、疲れた顔をして歩いているの？」

愛しい人は苦笑いしながら私の頭を撫でる。

「彼等はシアワセを見失ってしまったのさ」

とても悲しそうな眼で急ぎ足で歩く人たちを見下ろす。私達がいる歩道橋も、人が多く、冬だというのに暖かった。

「でも…」

愛しい人はまだ、下を見ている。

「彼等は何を見つけたの？シアワセを見失ってまで探す価値のあるモノを見つけたのでしょうか？」

愛しい人は答えない。

道行く人も答えない。

誰も、

答えない。

「私、シアワセを見失うくらいなら、死んだ方がマシだと思う。シアワセがない生活なんて寂しいと思う…」

愛しい人は私を抱き寄せた。ぎゅつと抱き締められて、シアワセを感じた。

「考えたところで僕達にはわからないよ…帰ろう」

愛しい人に肩を抱かれてバスに乗る。軽くアクビをすると、寝てもいいよ、と言われたので、彼にもたれて眠った。シアワセなキモチで。町行く人は、今日がシアワセじゃなかったんじゃないだろうか。今日がシアワセじゃないから、明日もシアワセじゃないと思ってるんじゃないだろうか。

でも…

明日は必ずやってくる。

きつと、

シアワセを連れてやってくる。

(後書き)

読んで下さってありがとうございます！まだまだ未熟ものですが、これからもたまに書きますので、よろしくお願いします。

姜妃

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3107a/>

---

シアワセ

2011年10月3日02時16分発行